

夏の庭

五井 昌久

庭にゐる我れを訪ひ来し客のさす日傘にうつる松の木の影

さしかくる客の日傘の松の影強き陽さしもなつかしきかな

池に落つる庭滝の音久闊の日傘の客の声美しく

庭隅の小さき花我れを呼びとめぬいのち可憐なり赤きその花

小さき花小さきいのちのいとほし日傘の客の小腰かがめぬ

庭を流る木の香草の香歩みきて桔梗の花に歩みとどまる

街中の我が庭なるにめずらしや梟（ふくろう）鳴けり鳴きつづけをり

祈りいる夜半のしじまに鳴きつづく梟の声童話めきををり

梟の声に融けぬし我が耳に救急車の音夜半の街ゆく

梟の声絶えしとみる庭にカナカナの声小鳥子の声

詩集『夜半の祈り』より